

[Poster] 一般演題ポスター 【抄録・スライド】**[P24-01] ハムスター咬傷によりアナフィラキシーをきたした症例**

*伊藤 美智子¹ (1. 福岡大学病院 臨床検査・輸血部)

【症例】 14歳男児

【主訴】 呼吸困難、喘鳴、蕁麻疹

【現病歴】 ペットフード（ひまわりの種、クルミ、カシューナッツ、アーモンド、市販のペレットを混合）摂取後のジャンガリアンハムスターに右手背を噛まれ同部位の腫脹が出現、呼吸苦と喘鳴および全身の蕁麻疹が現れ前医を受診、デキサメサゾン静注後当院に紹介入院した。喘息含め既往歴なし。家族歴なし。

【入院時現症】 体温、心拍数、血圧、SpO₂異常なし。ラ音、喘鳴なし。右手背第3指付け根に3か所咬傷と腫脹、発赤、全身に膨疹あり。

【経過】 血液検査でハムスター特異的IgE値 3.29 kU_A/L、アーモンド特異的IgE値 1.54 kU_A/L、ハムスター唾液に対するプリックテストで陽性を示した。アーモンド10gの食物経口負荷試験は陰性、他の食物は摂取可能であり食物アレルギーは否定、ハムスター咬傷によるアナフィラキシーと診断した。

【考察】 ハムスター咬傷によるアナフィラキシーは稀である。毛や皮膚、尿蛋白、唾液などが抗原性を示す。既報はほぼ全てがジャンガリアンハムスターによるものであり、咬傷歴のある症例が多かった。本症例も咬傷により唾液に感作が成立したと考えられた。